

令和 3 年 6 月 17 日現在

機関番号：13601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K02567

研究課題名(和文)対話的手法を通じたホリスティックな教師教育プログラムの開発と検証

研究課題名(英文)Development and Verification of Holistic Teacher Education Program through Dialogical Methods

研究代表者

河野 桃子(Kono, Momoko)

信州大学・学術研究院総合人間科学系・講師

研究者番号：10710098

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文):初年度、教育実践者との間で対話的手法によるインタビューを行い、対話的手法の有効性と課題を確認した。また、対話や関連概念に関する基礎的研究を行った。次年度、対話的手法に関する学会報告を行い、フロアの意見を基に改良を行った。また、国際学会で成果を共有した。最終年度、得られた知見を基に、教師に限定しない実践者養成・研修用の「対話シート」を開発し、ワークショップでの意見から改良を行った。また、今後の実践者養成や研修での使用を想定し、完成した「対話シート」のパンフレットを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、教育や保育、看護、福祉の領域で研究・実践を行う者が協働したことで、当初想定していた教師の養成・研修だけでなく、保育士、看護師、社会福祉士等幅広い実践者の養成・研修に対話的手法が有効であることを示すことができた。また、その成果を「対話シート」とそれをを用いたプログラムという形で提示することができた。本研究は、対象者の主体性を引き出す上での対話の有効性を示すという学術的意味をもつとともに、そうした対話を活かした養成・研修の実用化に貢献したという点で社会的意義をもつ。

研究成果の概要(英文): In the first year, we conducted dialogical interviews with educational practitioners to confirm the effectiveness and issues of the dialogical methods. We also conducted basic research on dialogue and related concepts. In the second year, we made a report on the dialogical methods and made improvements based on the opinions of the floor. We also shared the results at an international conference. In the final year, based on the knowledge obtained, we developed "dialogue sheets" for practitioner education and training that are not limited to teachers, and made improvements from the views at the workshop. In addition, pamphlets of the completed "dialogue sheets" were created assuming use in future education and training of practitioners.

研究分野：教育学

キーワード：ホリスティック 対話 教師教育

1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が目指されている。これは、子ども達が、学ぶ対象に興味や関心を持って取り組み、自分の学習活動を振り返って次につながるようになること（＝主体的な学び）と、子ども達が、子ども同士・教師や地域の人との対話を通じて自分の考えを広げ深められるようになること（＝対話的な学び）を通じた、自分自身にとって深い意味のある学び（＝深い学び）が目指されているということである。その一方で、教師教育（教員養成・教員研修）については、次のような問題点が指摘されている。

- ・ 確固たる理念が存在しないこと
 - ・ 理論・思考が軽視され、方法・技術が強調されていること
 - ・ 新たな改革案がトップダウンで決定され、教師に思考が求められていないこと
- （下司晶「哲学なき教員養成のゆくえ」日本教育学会第 76 回大会「教師教育改革の動向をどう受け止めるか」、2017 年）

教師自身が「ハウツーを教えてもらえばいい」という受け身の姿勢で養成や研修に臨み、思考をストップさせてしまえば、子ども達が「主体的な学び」を実現することは難しく、結果的に「対話的な学び」と「深い学び」の実現も困難になる。以上のような背景から本研究チームは、「教師自身が主体的に学べる教師教育とはどのようなものか」を中心的な「問い」として据えることとした。またその際、「対話的手法」が、教師の主体的な学びへの助けになるとの仮説に基づき、「ホリスティック教育」の視点から調査研究を行うこととした。

まず、「対話的手法」に着目したのは、以下の理由による。今の教師教育の問題点が、「教師が受け身の姿勢になってしまう」点にあるということは、教師教育が、一方的な教え込みになっているということである。そこで本研究では、「語り手」と「聞き手」の両方が対等な立場で、しかも主体的に関わらなければ成立しない「対話」が、教師の主体的な学びを実現するための手がかりになると考えた。

次に、「ホリスティック教育」に着目したのは、以下の理由による。教育について、「つながり」（connection）や「かかわり」（relation）の観点から捉えるホリスティック教育では、ブーバー（Martin Buber 1878-1965）の思想に代表されるように、「対話」と人間形成の間に深い関連が指摘される（吉田敦彦『ブーバー対話論とホリスティック教育』勁草書房、2007 年）。このため本研究では、この領域の研究成果に接続することが有用だと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、上述の背景のもと、以下の二つを主な目的として開始された。

- ・ 教師教育における「対話的手法」の意義を検討し、教師の主体性を引き出す「問い」を抽出する。
- ・ 上記で抽出した「問い」に基づく教師教育プログラム（含ワークシート）を開発し、教師教育の場（教員養成課程・教員研修）で検証、検証結果を踏まえ改良したワークシートブックを公開する。

3. 研究の方法

本研究チームは、これまでホリスティックな教育・保育・看護・福祉に関する研究を進めてきた研究者、およびホリスティックな教育を行ってきた実践者から成っている。こうした特性を活かしながら、本研究は、以下の方法で進められた。

(1) 「対話」についての研究：研究分担者・研究協力者が、それぞれの研究分野の視点を活かし、「教育領域の教師教育における「対話」「保育領域の保育者養成における「対話」「看護領域の実践者養成における「対話」「福祉領域の実践者養成における「対話」に関する文献レビューを行った。また、アクティヴ・インタビューやオープン・ダイアログに関する研究を重点的に行った。基礎的な文献研究を踏まえた上で、研究者と教員とが対話的に授業づくりを行っている事例について、授業見学を行うとともに共同での検討を行った。

(2) 「対話」の関連概念についての研究：研究分担者・研究協力者が、それぞれの研究分野の視

点を活かし、「対話」に関連すると考えられる諸概念（例えば、リフレクション、多文化共生、多様性、他者理解、教育/ケア、ESD、SDGs、傾聴、言語、応答等）や、各インタビューのテーマに関連する諸概念（例えば、食育、多様な学び、聖なるもの等）に関する考察を行った。

(3)対話的手法に基づくインタビュー：研究者と実践者、および研究者同士による、対話的手法に基づくインタビュー調査を複数回行った。このインタビュー調査は、「聞き手」と「語り手」の役割が流動的で、双方が語りを共同構成する「アクティヴ・インタビュー」の手法に基づくものである。この調査の結果をもとに、他者との「対話」を通じた自己物語の「語り直し」はどのように生じるのか、また、そのような「語り直し」を引き出すのに相応しい問いとはどのようなものかについての検討を行った。

(4)対話的手法に基づく実践者養成・研修プログラムの開発：インタビュー記録の分析や、文献研究の成果に基づき、最終的に、当初想定していた教師の養成・研修だけでなく、対話的手法に基づく実践者（教師、保育士、看護師、社会福祉士等）の養成や研修のプログラム開発を行った。開発段階の内容を、学会のラウンドテーブルやワークショップ等で共有し、フロアからの意見を反映させることでよりよいプログラムになるよう改善を行った。

4. 研究成果

上記(1)～(4)の方法に基づいて行った研究の結果、得られた成果は次の通りである。

(1)「対話」および関連概念についての論文等の公表：

上記(1)(2)の方法で行った研究の成果として、研究分担者・研究協力者が個別に論文等を執筆、公開した。また、最終報告書として『対話的手法を通したホリスティックな教師教育プログラムの開発と検証』を作成し、その成果の一部を公表した。この成果を通じて、「対話」の特徴や、それが教師教育の文脈でどのように論じられてきたのか、またそれがなぜ日本の教師教育や実践者教育に有用だと考えられるのかについて、関連概念と結び合わせながらまとめた形で示すことができた。掲載論文の多くは、とくに支障のあるものを除きオープンアクセスとして公開する予定である。

(2)インタビューデータの公開：

上記(3)の方法で行ったインタビュー調査のデータの一部を、学会のラウンドテーブルで公表した。この際フロアの意見を踏まえることで、「語り直し」を引き出しやすい問いや「聞き手」の姿勢等を示すことができた。これらの成果については、各インタビューのローデータ（一部）とともに、上述の最終報告書に掲載した。また、2019年度には、その成果の一部を韓国で行われた国際学会（The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education）で報告し、国際的な意見交流を行った。

(3)「対話シート」の作成と、それをを用いた実践者教育プログラムの開発：

3年間の研究成果を踏まえて、最終的に、当初想定していた教師の養成・研修だけでなく、実践者（教師、保育士、看護師、社会福祉士等）の養成・研修のためのプログラム開発を行った。具体的には、「ライフヒストリーデザイン曼荼羅」と「9 フレームリフレクション」の知見に基づき、3枚の「対話シート」を作成した。また、これにともなって、3部構成の実践者養成・研修のためのプログラムを示した。

これら3枚のうち2枚のシートでは、実践者が「自己内対話」を通して自身のこれまで・これからのライフヒストリーや、日々の実践のなかで気になったことに向き合い、リフレクションを行うことができるようになっている。また、最後の1枚では、そのリフレクションの記録に基づきながら他者との「聞きあう対話」を行い、他者の言葉に開かれながら、もう一度自身の実践を振り返り、今後を見通すことができるようになっている。作成したプログラムはパンフレットとしてまとめ、そこに記載したQRコードによって誰でも何回でも3枚の「対話シート」にアクセスできるようにし、広く実践者の養成や研修で使用してもらうことを目指した。

研究を計画していた当初は、開発したワークシートおよびプログラムを研究分担者の勤務校等で実践し、その効果についての考察も研究期間中に行うことを予定していた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により、効果検証は今後の課題として残されることとなった。ただし、本プログラムの開発途中に行った、「対話シート」を使ったオンラインでのワークショップは、今後、対話的手法による実践者養成・研修のプログラムを非対面で行う可能性に目を向ける機会となった。現段階では、とくに研修等で初めて対面することになる相手とどのように「聞きあう対話」を行うことができるのか、その条件や環境作りなどクリアすべき問題もあるが、今後、対話的手法に基づく実践者養成・研修をリモートで行う方法を探ることは、地域に縛られない養成・研修のあり方を考える上でも、重要な課題となると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 河野桃子	4. 巻 23
2. 論文標題 ホリスティックな知がもたらす道徳的発達の可能性 R.シュタイナーによる「一体となって知ること (Sich-Einswissen)」を手がかりに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ホリスティック教育/ケア研究	6. 最初と最後の頁 31-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫美幸	4. 巻 30(2)
2. 論文標題 沖縄の民話における「異人」たちと「多文化共生」日本社会における多文化共生教育への示唆	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 文教大学国際学部紀要	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孫美幸	4. 巻 23
2. 論文標題 済州島の民話における「異人」たち 韓国社会における多文化教育をより深化させるために	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ホリスティック教育/ケア研究	6. 最初と最後の頁 6-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木戸啓絵	4. 巻 23
2. 論文標題 幼児教育と持続可能な社会の構築：二人称的アプローチを手がかりとして	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ホリスティック教育/ケア研究	6. 最初と最後の頁 55-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津山直樹, 福若真人	4. 巻 23
2. 論文標題 異なる教育観をつなぐホリスティックな対話的技法の検討 シナジーを生み出すアクティブ・インタビューの可能性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ホリスティック教育/ケア研究	6. 最初と最後の頁 17-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田喜一郎	4. 巻 57
2. 論文標題 エスノグラフィー『? (原文では逆疑問符) 図書館はESD/SDGsを超える?』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代の図書館	6. 最初と最後の頁 76-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野桃子	4. 巻 10
2. 論文標題 自然のなかの「聖なるもの」と遊び - 里山保育ひなたぼっこの事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教職研究	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田華子	4. 巻 1
2. 論文標題 総合的な学習の時間及び特別活動で取り組む食育の現状と課題 ホリスティック教育の視点からの予備的考察	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 天理大学教職教育研究	6. 最初と最後の頁 21-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山博幸	4. 巻 49
2. 論文標題 <研究ノート>教育とケアの多層性を生きる教育者/保育者の存在様式についての考察-幼児教育・保育における環境構成概念の検討を通して-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 十文字学園女子大学 紀要	6. 最初と最後の頁 57-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 孫美幸	4. 巻 22
2. 論文標題 ケアリングの視点を取り入れた多文化共生教育	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ホリスティック教育/ケア研究	6. 最初と最後の頁 87-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大山博幸	4. 巻 -
2. 論文標題 介護保険施設での傾聴ボランティア活動を通じた傾聴技術の評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域志向教育研究プロジェクト 研究成果論文集2014-2018	6. 最初と最後の頁 31-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福若真人、森岡次郎	4. 巻 42
2. 論文標題 「多様な学び」をめぐる「自由」と子どもの「主体性」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西教育学会年報	6. 最初と最後の頁 106-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田喜一郎	4. 巻 -
2. 論文標題 グローバル時代の『教師教育/Educator Education』を問い直し/見通す：『Education/教育』150年の『呪縛/spell』を読み解く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『グローバル時代を共に生きる子どもを育てる教育実践の推進：教員研修プログラムと教育実践から未来を拓く』平成28年度～平成29年度 科学研究費助成基金(基礎研究C) 研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 成田喜一郎	4. 巻 7
2. 論文標題 奈良少年刑務所「社会性涵養プログラム」の有意義性：ホリスティック教育/ケア学の視点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学教職大学院年報	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 釜田聡、姜英敏、金仙美、津山直樹	4. 巻 24
2. 論文標題 国際委員会活動報告	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際理解教育	6. 最初と最後の頁 80-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件（うち招待講演 4件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 河野桃子、池田華子、津山直樹、福若真人
2. 発表標題 ホリスティックな「対話」の場における自己物語の語り直し 暮らしのなかのホリスティックなあり方に焦点づけて
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会 第3回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野桃子
2. 発表標題 ホリスティックな知がもたらす道徳的発達の可能性 R.シュタイナーによる「一体となって知ること (Sich-Einwissen)」を手がかりに
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会 第3回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田敦彦、池田華子、奥本陽子、孫美幸、河野桃子、大山博幸、木戸啓絵
2. 発表標題 Holistic Education : Care Research in Japan Focusing on the 2019 Conference Report
3. 学会等名 The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾我幸代
2. 発表標題 多文化共生とESD
3. 学会等名 日本教育学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾我幸代、神谷良恵、ユリア
2. 発表標題 「でも」に应答する園改革：一人ひとりをケアする保育を実現するために
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会第3回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 曾我幸代、宇土泰寛
2. 発表標題 SDGs時代の水・気候変動教育を問う
3. 学会等名 日本国際理解教育学会第29回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫美幸
2. 発表標題 韓国済州島の民話から考える多文化共生 日韓関係への示唆
3. 学会等名 日本国際理解教育学会第29回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 森結香、上口麻李、竹村景生、孫美幸
2. 発表標題 「総合的な学習の時間」の内発的ESD実践への転換に向けて「ひとに会う」を通して子どもたちの気づき・自己変容の語りを捉える
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会第3回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 孫美幸
2. 発表標題 平和教育、人権教育から考える道徳 ESDとの関連を探りながら
3. 学会等名 奈良教育大学附属中学校教職員研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木戸啓絵
2. 発表標題 持続可能な社会の基盤となる幼児教育のあり方
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木戸啓絵
2. 発表標題 乳幼児期の遊びと学び：二人称的アプローチを手がかりとして
3. 学会等名 日本ホリスティック教育/ケア学会 第3回研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 企画：百合草偵二 話題提供者：木戸啓絵、松好信一、大道香織 指定討論者：岡花祈一郎
2. 発表標題 フォーラム森の幼稚園（1）-今、考えるべきこと- 担当タイトル「諸外国の研究動向」
3. 学会等名 日本発達心理学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口美和、酒井真由子、小林成親、木戸啓絵
2. 発表標題 保育者の「実践知」をいかに語るか ～「自然保育」における実践と理論の架橋をめぐって～
3. 学会等名 日本自然保育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田華子、奥本陽子
2. 発表標題 Constructing Dialogical Relationship for Self-Transformation
3. 学会等名 The 7th Roundtable Meeting of Asia-Pacific Network for Holistic Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青木芳恵、湯野光代、高森美香、寺町聡子、二ノ坂保喜
2. 発表標題 在宅看取りに関わる多職種連携の質を深める協働的かつ継続的な取り組み
3. 学会等名 第26回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福若真人
2. 発表標題 西谷啓治における「生死」の問題 大谷大学講義を手がかりにして
3. 学会等名 関西教育学会 第71回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津山直樹
2. 発表標題 博学連携による構成主義的学習の可能性 JICA地球ひろばの展示を活用した単元設計・実践を事例に
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 津山直樹
2. 発表標題 IBMYPにおけるユニットプランナーの意義 社会科学習指導案の構成要素との比較検討を通して
3. 学会等名 日本社会科教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤原孝草、津山直樹、森茂岳雄
2. 発表標題 あらためて海外体験学習の質を問う プログラムづくりと評価方法を軸に : 第二セッション学習の成果をどう評価するか~ループリックをつくろう
3. 学会等名 大学教育における「海外体験学習」研究会 (JOELN)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 成田喜一郎
2. 発表標題 海外から帰国した生徒の学びと問いかけの有意味性を探る ~1980s - 1990s の実践を問い直し/見通す~
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 相馬伸一、綾井桜子、河野桃子、下司晶、尾崎博美
2. 発表標題 教育思想史 の誕生 (3) フランスにおける成立とドイツにおける展開
3. 学会等名 教育思想史学会第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野桃子、曾我幸代、高橋和也、吉田敦彦、成田喜一郎
2. 発表標題 今ここからホリスティック教育/ケアの可能性を探る
3. 学会等名 2018年度日本ホリスティック教育/ケア学会 第2回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田口寛太郎、富田純喜、米津美香、河野桃子
2. 発表標題 保育が新しい教育哲学をつくる?!
3. 学会等名 教育哲学会第61回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山博幸
2. 発表標題 「ホリスティックな援助者」モデルの試み
3. 学会等名 2018年度日本ホリスティック教育/ケア学会 第2回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大山博幸、富井友子、太田真智子
2. 発表標題 相談援助実習における社養協相談援助実習評価表を用いた学習達成評価の調査 ~実習指導者による評価結果と実習生自身の自己評価との比較・関連~
3. 学会等名 日本社会福祉学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 孫美幸
2. 発表標題 沖縄の民話における「異人」たちと「多文化共生」：日本社会における多文化共生教育の示唆
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮本雅央、大山博幸
2. 発表標題 地域におけるコーディネート実践能力に関する仮説
3. 学会等名 日本社会福祉教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木戸啓絵
2. 発表標題 Japan- Bildungsfoerderung im Waldkindergarten
3. 学会等名 Internationaler Kongress der Natur- und Waldkindergaerten (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木戸啓絵
2. 発表標題 幼児期におけるESD
3. 学会等名 日本保育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木戸啓絵
2. 発表標題 ドイツの乳幼児期におけるESDの取り組み
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Michiko Inoue, Midori Mitsuhashi, Hiroe Kido.
2. 発表標題 Nature-based early childhood activities as environmental education?: A review of Japanese and Australian
3. 学会等名 日本環境教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大倉高志、福若真人、小森田龍生、伊福達彦
2. 発表標題 自死遺族による展示会は来場者にどのように受け止められたか(1)：来場者アンケートの属性分析
3. 学会等名 第42回日本自殺予防学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小森田龍生、福若真人、大倉高志、伊福達彦
2. 発表標題 自死遺族による展示会は来場者にどのように受け止められたか(2)：テキストマイニングによる計量分析
3. 学会等名 第42回日本自殺予防学会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 曾我幸代
2. 発表標題 一人ひとりを大切にする保育の自明性を問い直す：ESDの視点から
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津山直樹
2. 発表標題 他者の文化を理解するための学びのプロセス IB校における『異己』概念に基づいた授業実践を事例に
3. 学会等名 日本国際理解教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 津山直樹
2. 発表標題 多様な見方・考え方を引き出す歴史セルフディベートの意義 IB校における中学校社会科歴史的分野での授業実践を事例に
3. 学会等名 日本社会科教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 荒井（大塚）絢子、一見真理子、植田みどり、菊地栄治、河野桃子、木戸啓絵、金泰勲、吉良直、斉藤泰雄、坂野慎二、澤野由紀子、清水満、鈴木優美、高山龍太郎、鄭廣姫、永田佳之、長嶺宏作、中村浩子、福若真人、本図愛美、吉田敦彦、米山尚子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 710
3. 書名 変容する世界と日本のオルタナティブ教育 生を優先する多様性の方へ	

1. 著者名 曾我幸代（日本環境教育学会／日本国際理解教育学会／日本社会教育学会／日本学校教育学会／SDGs市民社会ネットワーク／グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（編））	4. 発行年 2019年
2. 出版社 教育出版	5. 総ページ数 256
3. 書名 事典 持続可能な社会と教育	

1. 著者名 津山直樹（森茂岳雄、川崎誠司、桐谷正信、青木香代子編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 社会科における多文化教育 多様性・社会正義・公正を学ぶ	

1. 著者名 永田佳之編著、木戸啓絵	4. 発行年 2019年
2. 出版社 山川出版	5. 総ページ数 159
3. 書名 気候変動の時代を生きる：持続可能な未来へ導く教育フロンティア	

1. 著者名 国土緑化推進機構編、木戸啓絵	4. 発行年 2018年
2. 出版社 風鳴舎	5. 総ページ数 191
3. 書名 森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック	

1. 著者名 成田喜一郎編著	4. 発行年 2019年
2. 出版社 サンプロセス	5. 総ページ数 -
3. 書名 ESD/GAP/SDGs 通信 2018 TAMAKUSU : Education/教育の「当たり前」を問い直す	

1. 著者名 村田晶子編著、森茂岳雄、津山直樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 219
3. 書名 大学における多文化体験学習への挑戦 国内と海外を結ぶ体験的学びの可視化を支援する	

1. 著者名 入戸野宏、綿村英一郎編著、孫美幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 270
3. 書名 シリーズ人間科学 感じる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	池田 華子 (Ikeda Hanako) (20610174)	天理大学・人間学部・准教授 (34602)	
研究分担者	孫 美幸 (Sohn Mihaeng) (40755493)	文教大学・国際学部・准教授 (32408)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	曾我 幸代 (Soga Sachiyo) (40758041)	名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授 (23903)	
研究分担者	大山 博幸 (Oyama Hiroyuki) (80383339)	十文字学園女子大学・人間生活学部・准教授 (32415)	
研究分担者	青木 芳恵 (Aoki Yoshie) (80708040)	帝京大学・公私立大学の部局等・講師 (32643)	
研究分担者	木戸 啓絵 (Kido Hiroe) (90746439)	岐阜聖徳学園大学短期大学部・その他部局等・講師 (43704)	
研究分担者	福若 真人 (Fukuwaka Masato) (50844445)	四天王寺大学・教育学部・講師 (34420)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	成田 喜一郎 (Narita Kiichiro)		
研究協力者	津山 直樹 (Tsuyama Naoki)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	高野 慎太郎 (Takano Shintaro)		
研究協力者	奥村 知亜子 (Okumura Chiako)		
研究協力者	山浦 恵津子 (Yamaura Etsuko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関